

三省堂 国語教育

# ことばの学び

a new way of learning Japanese



平成24年度版

『中学生の国語』教科書特集号Ⅱ



三省堂 130th Anniversary 三省堂 創業 130周年

最初の1ページの前に…

## あの時の三年十二組の教室へ

僕は 大阪と神戸の間に在る 市の中学校に通っていました。

当時の先生方の口癖は「とにかく あなた達の年代は 多いのよ」でした。

一クラス五十四人で 十二クラスまであり その内 二クラスはプレハブ教室で授業を行い  
遠足のときなどは バス十二台連ねて行くのです それが いやだと思った事は無いですし  
逆に おもしろおかしい事の方が 沢山ありました。

気持ち良さそうに流れている 川の流れのその中に 足をひたすとあぶないぞ  
強い流れに流されて クラスの男子に 夢中になるよ。

体育館のウラにあった樹に咲く花は ちょっとあぶない  
つまんで香りを かいでしまうとクラスの女子に 夢中になるよ。

さあ 来なさいよ 岩の様な雲さん  
冷えた風と土の匂いを運んで来て 太陽をさえぎり好きだけ暴れたら  
太陽といっしょに きれいな橋を 架けなさいよ。

子供の小学生でもなく 半分大人の高校生でもなし 丁度真中の中学生 一番楽しくて  
甘くて ながくて 苦しい 真中で一瞬の中人 三年間の限定ですよ。

中人の三年間にできたモノサシは  
いつまでもポケットにはいったままで  
子どもが生まれても 孫が 出来ても まだポケットに入ったまんま。

小森 誠



こもり まこと/1948  
年、京都府生まれ。イラストレーター。広告、雑誌『ポパイ』『日経クリック』表紙、絵本『ハルン君』『ダットサン』などを描いています。



別冊 資料編『中学生の国語 学びを広げる』の表紙絵は、  
1年生が「木」、2年生が「水」、3年生が「空」をモチーフに、  
小森誠さんが描いた作品です。

三省堂 国語教育

# ことばの学び

a new way  
of learning  
Japanese



平成24年度版『中学生の国語』教科書特集号Ⅱ

## CONTENTS

- 02 私が中学生だった頃 「印象に残っていない」先生の思い出 早川文代
- 特集『中学生の国語』を使った授業
- 04 『中学生の国語』の全体構成
- 06 ① 3ステップで、言語能力の確かな定着を図る「学びの道しるべ」。▶  
豊かな学びを導くための道しるべ 『中学生の国語』編集委員会
- 08 ② 受け継がれてきた言葉を大切に「伝統的な言語文化」の教材。▶  
楽しく学び、味わう古典 『中学生の国語』編集委員会
- 10 ③ 「確かめよう」で、何を学ぶのかを確かめる。▶  
確かめることによる学びの広がりや深まり 宮本浩治
- 12 ④ 「確かめよう」で、何を学んだのかを確かめる。▶  
「空中ブランコ乗りのキキ」で学んだ後に 寺田守
- 14 ⑤ 別冊・資料編の「言語文化編」で、言葉の世界の広がりや深まりを実感する。▶  
負担を軽減しながら豊かな学びを展開する 『中学生の国語』編集委員会
- 16 ⑥ 別冊・資料編の「情報活用編」で、情報活用の力をつける。▶  
教材「企画会議を開こう」を活用した効果的な話し合いの授業づくり 中村敦雄
- 18 ⑦ 別冊・資料編の「事典編」で、年間を通して学習習慣をつける。▶  
「事典編」自体を学習材に一年間課題のすすめ 町田守弘
- 20 『中学生の国語』説明的な文章の教材
- 22 『中学生の国語』文学的な文章の教材
- 24 変わる中学校の古典学習 第3回 次の学習に向かう生徒を育てる古典 飯田和明
- 26 常用漢字になりました。 第3回 「健康」に関する漢字 笹原宏之
- 28 教育と数字 第3回 学校選択制をどう捉えるか? 尾木和英

## 「印象に残っていない」先生の思い出

●(独)農研機構食品総合研究所 早川文代

私は、本当に楽しい中学生生活を送った。あの三年間は、間違いなく、「私の人生でもう一回味わいたい幸せな時間」のベストテンに入る。

とにかく、朝から晩まで楽しかったのである。制服が気に入っていたので、朝の支度もハッピーだった。たった二駅だったけれど、電車通学も大人の仲間入りをしたようでウキウキしたし、友達とおしゃべりしながら駅からの道を歩くのも楽しかった。かわいいキラクターやいい香りの文房具を使うのが楽しく、それなりにまじめに勉強もした。先輩は厳しかったが、部活動も楽しかった。運動会、球技大会、合唱コンクール、どれも盛り上がって、今でも時折思い出して胸が熱くなるほどだ。現在も親しくしている友達もいる。ところが、である。こんなに楽しかったのに、「印象に残っている先生」を思いつかないのである。これほど中学時代が楽しかったのだから、私にも恩師と呼ぶべき先生がいたはずだ。恩師、恩師、恩師……。

ふいに、F先生のことを思い出した。一年生と三年生のときの担任だ。少々ねちっこい声で淡々と話すので、失礼ながら、決してさわやかでも、熱血教師らしくもなかった。

F先生は、時折、放課後に生徒を呼んで面談をした。一人のこともあれば、グループ単位のこともあった。しかし、実際のところは、面談というよりも、ちょっとしたおしゃべ

りで、話題は本人のことだけでなく、クラス全体のことであった。先生は聞き役に徹して  
いて、私は、ペラペラといういろいろなことをしゃべった。先生は、生徒とのコミュニケーショ  
ンを図ると同時に、クラス内の情報を得ていたのだろう。

クラスに、Y君というおとなしくてスローペースの子がいた。あるとき、男子の何人か  
が、Y君をからかい、軽く小突いた。それを知ったF先生は真っ赤になって怒った。数日  
後にY君が再びからかわれたときは、さらに怒ってその生徒をなぐった。結局、Y君はそ  
れ以上からかわれなかった。

F先生はいつも淡々としていたが、クラス内の様子に気を配り、いじめに発展しかねな  
い小さな芽を決して見逃さなかった。おかげで私たちは、学校生活を存分に楽しめた。そ  
して、皆、弱い者いじめは許されないという当たり前のことを身につけた。卒業して二十  
数年が経ち、現在、私は、食品の研究者となったが、仕事も育児も、少々つまずきながら  
も、そこそこ楽しくがんばっている。その根っこには、中学生のときの、何でも楽しくが  
んばった経験があるのだと思う。思えば、それはF先生のような地味なサポートがあった  
からだ。私は、自分の娘たちも、たくさんのF先生のような教師にめぐり会ってほしいと  
思っている。



『中学生の国語 一年』に、  
早川文代先生の「食感のオノマトペ」を掲載しています。

# 『中学生の国語』の全体構成

基礎・基本の習得と思考力・判断力・表現力の育成、学ぶ意欲の二層の向上のために、「本冊」「別冊」「資料編」の二分冊構成としています。  
 今回は『中学生の国語』を使った授業のアイデアを二つ紹介します。

## 本冊



●国語の授業の場で使用し、言葉の力をつけるための教科書です。

### 本編

●「本編」には「指導事項」を全ておさえた「必修」教材が入っています。知識・技能の習得とその活用を繰り返しながら、言語能力を確実に身につけます。

↓ P08  
2

↓ P06  
1

### 確かめよう

●国語科で身につけたい言語技能を、領域ごとに整理してまとめました。  
 ●授業のはじめやおわりに、「確かめる」ことで学習の定着を図ります。

↓ P12  
4

↓ P10  
3

## 1年間並行使用

## 別冊



●学習した知識・技能を整理し、主体的な学習活動を充実させるための教科書(資料編)です。

### 資料編 学びを広げる

●言葉の資料集です。言葉の世界をさらに広げることができます。  
 ●各教科の学習や生活のさまざまな場面で活用できます。

↓ P08  
2

### 言語文化編

↓ P14  
5



水田のしくみを探る

岡本綺絵

17 ●文章の新しい読み方

18 ●文章の読み方



『中学生の国語』を使った授業  
3ステップで、言語能力の確かな定着を図る「学びの道しるべ」。

# 豊かな学びを導くための道しるべ

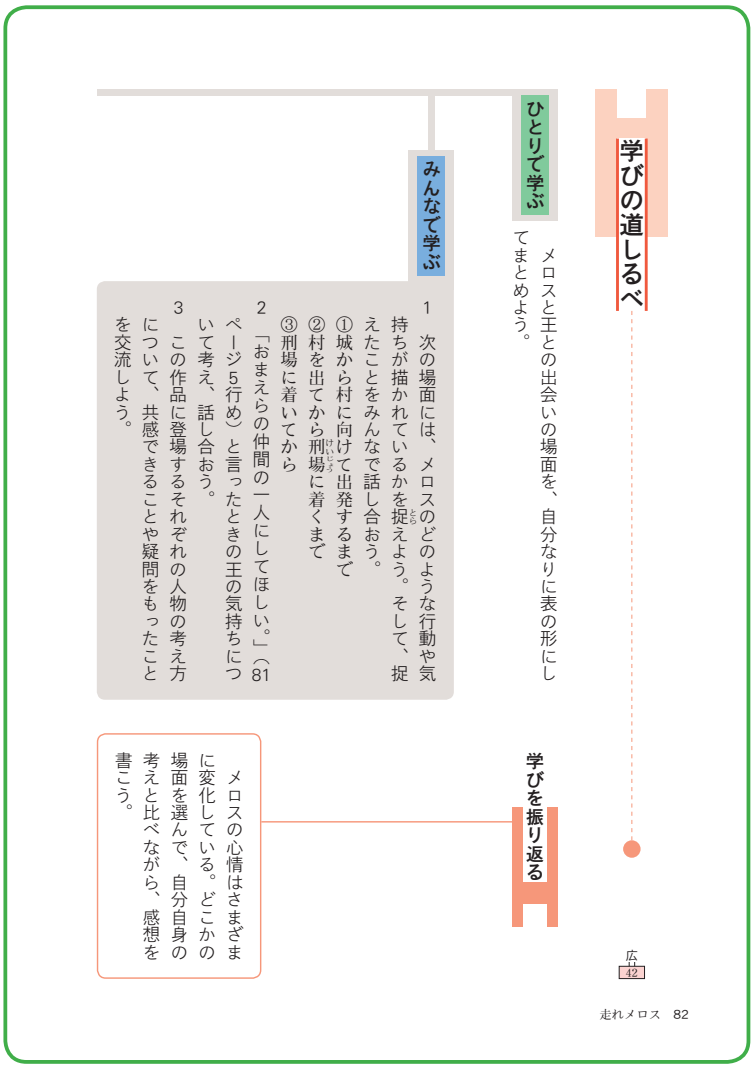
●『中学生の国語』編集委員会

新学習指導要領では、各教科等における言語活動の充実が重視されている。国語科では特に言語活動を通して言語能力を育成することが求められている。

しかし、国語科の実際の授業を振り返ったときに、いくつかの課題がある。ここではそのうちの三つの課題について「走れメロス」（太宰治）を通して注目してみる。

## 授業のここが課題① 生徒が乗ってこない

生徒が学習内容に興味・関心をもてない授業である。たとえ導入で興味をもつても、いざ中心となる学習活動に入ろうとすると、意欲的に取り組まない。例えば、『走れメロス』をいくつかの場面に分けて、見出しを付けましょう。』という課題を与えたとする。自己効用感が低い生徒にとっては、何のために見出しを付ける必要があるのかわかりにくいし、めんどくさく感じられる。





## 授業のここが課題② 交流ができない

一部の生徒の反応に頼る授業である。グループでの話し合いをもっても、一部の生徒が自説を展開し、他の生徒は聞いているだけである。グループとして全体に意見を発表する場があれば、その一人の生徒の意見を「代表」として発表する。例えば「登場人物の人物像を読み取りましょう。」という学習課題では、「どこをどう読んでどう解決すればいいかわかりにくい。交流の場をもとうとしても、答え方に慣れている生徒のみが活躍し、他の生徒はお客様になってしまう。」

## 授業のここが課題③ 活動あつて学びなし

話し合いや発表で、発表力のある一部の生徒が盛んに発表しているが、他の生徒は受け身で聞き流し、すぐに忘れていく。授業の振り返りは、「よく発表できたか。」といった項目にA・B・Cで答えるものである。教師が板書でまとめた内容を「定期試験のための準備」としてノートに写すようになってしまった。では、このような授業をどう変えていったらよいのだろうか。『中学生の国語』の新しい「学びの道しるべ」をもとに考えてみよう。

## これが活路① ひとりで学ぶ

全員の生徒の積極的な授業参加のために、『中学生の国語』では、「メロスと王との出会いの場面を、自分なりに表の形にしてまとめてみよう。」と問いかけている。ともすれば自己効用感の低い生徒は、「どうせやっただって正解通りにはいかない」後で答え合わせをするのだろう。」と考えがちで、どこから手をつけてよいかわからない。そこで、まず生徒全員が学びの共通の土俵に上るために「自分なりに」表にまとめる作業的な学習を設定している。ここから生徒は教材文の世界に引き込まれていく。まず教材文と向き合うためのエンジンにスイッチが入る学習課題なのである。

## これが活路② みんなで学ぶ

授業で豊かな交流や言語活動を行うために、『中学生の国語』では、「次の場面には、メロスのどのような行動や気持ちを描かれているかを捉えよう。そして、捉えたことをみんなで話し合おう。」と投げかけている。焦点化された問いにより、「ひとり学ばう」ステップから「みんな学ばう」ステップへと定めらるかにつながっている。意見を交流することで、教材文と向き合うことのできた生徒たちは、

ここでは教室のみんなと向き合い、より豊かな言語活動がスタートする。

## これが活路③ 学びを振り返る

一人一人の学びの定着のために『中学生の国語』では、「メロスの考えはさまざまに変化している。どこかの場面を選んで、自分自身の考えと比べながら、感想を書こう。」と導いている。活発な活動があり、授業が盛り上がり、参観者が感心したとしても、それが生徒一人一人の学びにつながっているとは限らない。生徒たちは自分の考えや気持ちと向き合い、表現することで、PISA型読解力の「熟考・評価」の力がつく。本教材でつけた言葉の力がきちんとついたらがここで揺るぎないものとなる。飛行機は、目的地の空港にきちんと着陸してこそ、飛行は成功なのである。

本教科書の「学びの道しるべ」は、教師にとつては「生徒の学びを導くための道しるべ」である。全員の授業参加、豊かな交流・言語活動、一人一人の学びの定着の三点から、これまでの授業の課題を解決していく準備はできた。後は、国語教師一人一人の個性を生かした授業づくりが各教室で進められることが期待される。

# 楽しく学び、味わう古典

●『中学生の国語』編集委員会

知識・理解を深め、  
興味・関心を広げる

各学年に配置した教材を、「伝統的な言語文化」という視点から整理すると、左の図のようになる。

本編に基本的な教材を配し、小学校や前学年での学習をふまえ、さらに古典に関する知識や理解を深める。そして、これを受け、別冊・資料編『学びを広げる』には、生徒の興味や関心を幅広く喚起するための教材を配置した。

三年生を例に一年間の「伝統的な言語文化」に関する教材を見ると、本編で、「おくのほそ道」と「中国の古典の言葉」を取り立てて学習する。また、「書くこと」と関連させて、「好きな和歌を紹介しよう」を学習する。

さらに、「中学生の国語」の巻末には、「文学史年表」を用意した。古典・近代・現代を

視野におき、中学校三年間の学習を振り返り、全体を俯瞰できるとともに、現代とのつながりを意識できるようにした。また、「漢文の知識・十二支・月の異名」を掲げ、古典の世界をより深く味わうことができるようにした。

別冊・資料編『学びを広げる』では、写真や俳諧でつづった「おくのほそ道紀行」、万葉がな、変体がなを取りあげた「日本の文字の歴史」、散らし書きや絵をもちこんだ「和歌・俳句のかたち」などを取りあげた。これらの教材は、本編で芽生えた興味や関心をより深めるために活用することができる。また、三年生年共通して、「詩の音読・暗唱」を、学習・発達段階に応じて取りあげた。

さらに、「能・歌舞伎・文楽」を写真入りで取りあげた。学習を通して身につけた知識や理解、芽生えた興味や関心が、身のまわりの伝統芸能にも広がっていくようにした。

## 言葉の継承者としての自覚

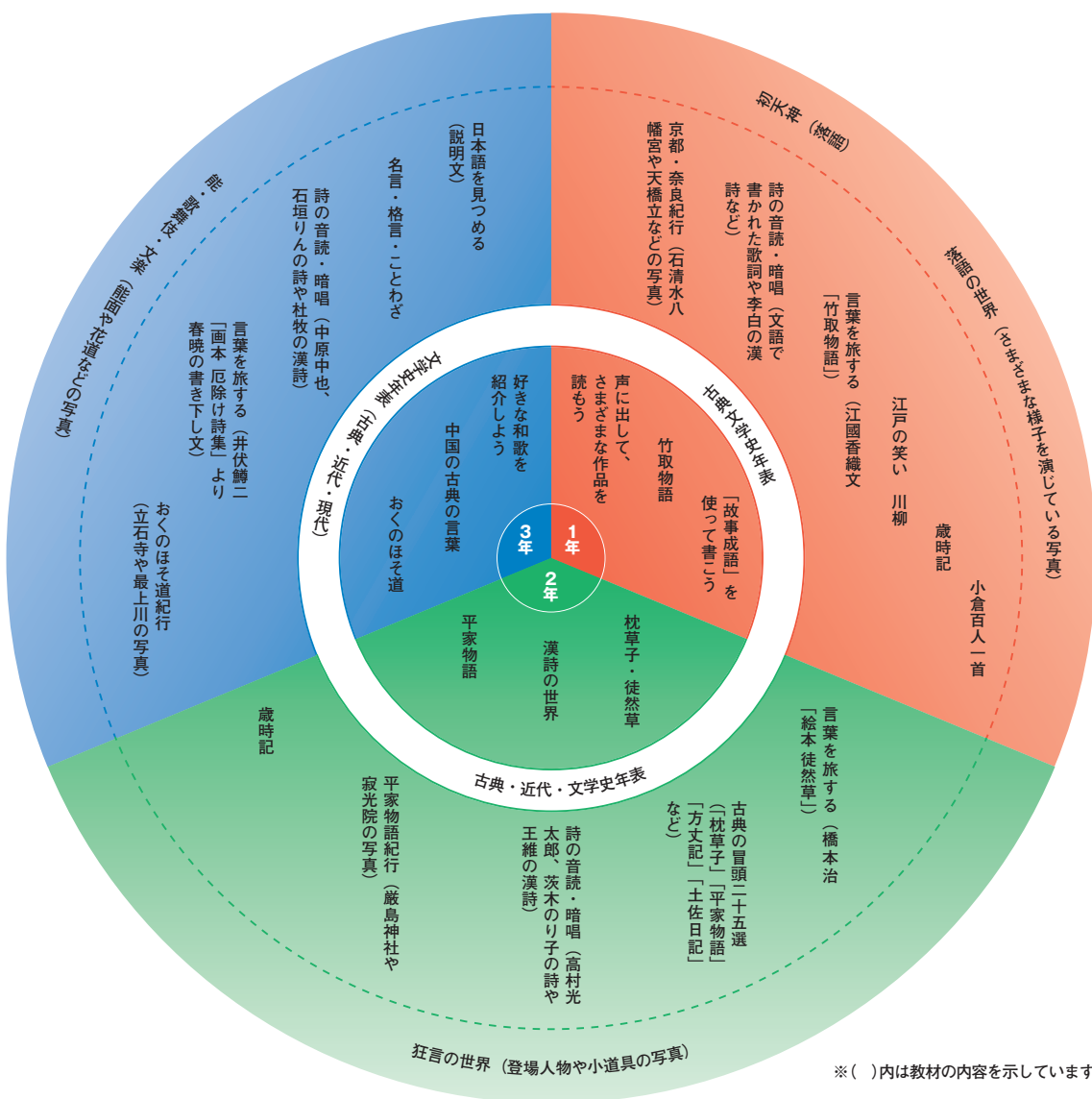
教科書の随所にこのような「伝統的な言語文化」に関わる教材を配置し、学習者の実態に応じて、指導者の工夫で適切に教材を選択できるようにするとともに、「書くこと」「読むこと」などと関連づけて活用できるようにした。さらに、生徒が個々に興味に任せて楽しむこともできるようにした。

これらの教材によって、国語に関する幅広い興味や関心が喚起され、言葉の継承者としての自覚が促されることを願う。



# 『中学生の国語』

## 『伝統的な言語文化』に関する教材



「中学生の国語」を使った授業

「確かめよう」で、何を学ぶのかを確かめる。

# 確かめることによる 学びの広がりと深まり

● 武庫川女子大学 宮本浩治

## 書くことの現実―国語教室の風景―

「国語の時間で何を学ぶの?」

「何を勉強すればいいの?」

国語の授業に対する中学生の代表的な声といってもいいかもしれない。とりわけ、「書くことの学習」は、子どもたちにとっては抵抗感、授業者にとっては負担感が大きい領域であることも事実である。

子どもたちが口々に言う。

「書くこと自体が嫌だ。」

「何を書けばいいのかわからない。」

「うまく書けないから嫌だ。」

しかし一方、授業者も不安を隠せない。

「指導の観点が子どもによって違う。」

「学習指導に時間がかかる。」

「書くことの楽しさをつくるには……」

「授業もだけど、添削も……」

確かに、豊かな学力の育成のためには、「書

くことの学習」の重要性は認識できているものの、子どもたちも授業者も前向きに学習に取り組めない状況が存在している。

## 焦点化するからこそ、確かめられること

『中学生の国語』には、学習の見通しやポイント、学習活動の展開が具体的、かつわかりやすく焦点化して示されていることもあり、子どもたちに不安や無力感、無意味さを感じさせない構造となっている。

例えば、二年生の「意見文を書く」のページを開くと、冒頭のページで一連の学習過程が示され、子どもたちに学習の見通しをもたせつつ、「意見文を書く」過程の「課題を設定する」こと、「構成する」こと、「振り返る」ことに焦点化すれば、よい「意見文を書く」ことができる」と明示されていると捉えることができる。

しかし一方で、子どもたちが学習の見通し

をもつことができ、学習が焦点化されたからといって、具体的に何をすれば、よい「意見文を書く」ことができるのかということについては、判断としないままであることが予想される。

実際に、「意見文を書く」過程で、「構成すること」に注意しなければいけない理由に気づいている、意識的になっている子どもが多くないことは想像に難くない。

## ① 思考の手引きとしての「確かめよう」

こういうときにこそ、「確かめよう」を活用することが望まれる。

子どもたちの率直な疑問として「意見文を書く」のに、「構成に気をつけなければならぬ理由がわからない」という声が聞こえてくればよい。そういう疑問の声が聞かれなくても、授業者の問いとして提示し、考えさせてもいい。「確かめよう」の「説得力のある文章を書くには」を開いてみると、子どもたちに



みやもと こうじ／武庫川女子大学文学部講師。『中学生の国語』編集委員。「読むことの学習」を中心として、授業論・学習論の開発を研究課題としている。

無理なく、「構成」について考えていくことの重要性が語られていることを見て取ることができる。「意見文」を記述する上で重要な要素である「自分の言いたいことを十分に伝えるための基礎・基本の技能」が、ここにはある。学習課題としての「構成する」ことを考える営みは、「意見文」として最も重要な要素である「説得力」の内実を捉え、「説得力」のある文章を記述する技能を習得するためのサポートになるのである。

二年確かめよう「説得力のある文章を書くには」

⑨ 説得力のある文章を書くには

「意見文」は、自分の言いたいことをしっかりと伝えることが大切です。そのためには、自分の考えを整理し、論理的に説明することが必要です。また、相手の立場から考えて、説得力のある文章を書くことが大切です。

「意見文」を書くときは、自分の考えを整理し、論理的に説明することが必要です。また、相手の立場から考えて、説得力のある文章を書くことが大切です。

「意見文」を書くときは、自分の考えを整理し、論理的に説明することが必要です。また、相手の立場から考えて、説得力のある文章を書くことが大切です。

「意見文」を書くときは、自分の考えを整理し、論理的に説明することが必要です。また、相手の立場から考えて、説得力のある文章を書くことが大切です。

紙面そのものが対話的な構造になっており、学習者に多様な視点が表示される

学習の見通しをもたせる段階での「確かめよう」の活用は、「構成に気をつけなければならない理由がわからない」という疑問に対して、子どもたちが考える際のヒントになると同時に、「意見文を書く」際のポイントとして意識化されていく材料ともなるのである。

### ② 記述・推敲の柱としての「確かめよう」

また、「確かめよう」の活用方法は、学習の見通しをもたせる段階での活用にとどまらない。実際に、「意見文を書く」段階では、よりよい「意見文」を記述するための視点が必要となる。学習の途中で、「確かめよう」を開けば、学び合うための手がかりを得ることができたり、考えを深めたりするための視点が提示されていることに気づかされる。

構成や叙述の段階においては、「効果的な表現」について論理的に考えなければならぬことは周知の事実である。とりわけ、「順序づける」、「関係づける」、「理由づける」ことが要求されている。「確かめよう」の活用は、事例提示の順序の決定や事例どうしの関係認識などについての視点を提供しつつ、子どもたちの思考をより確かに、豊かに展開させる資料となることが予想される。

同様の観点で、推敲や評価の段階での活用の可能性を開くことも期待できよう。

### ③ 授業者にとっての「確かめよう」

本編において、学習過程が焦点化されていることもあり、授業者にとっても学習活動の展開を意識しやすく、育成したい言語能力を着実に認識することができる構造となっていることはいうまでもない。

「確かめよう」は、教えるべき内容、学ばせべき内容をより明確に示したものである。学習をつくり出す装置にもなっており、授業者の学習指導過程構築の労力は非常に少なくなることを期待される。

### 対話をとおして学ぶこと

本来、「書くこと」の学習では、個人作業が主となることは否めない事実である。

しかし一方で、「書くこと」において、「他者を明確に意識すること」や「協同での学習が重要である」といわれて久しい。「確かめよう」の作りは、四人で一緒に学び合いながら、学習を深めていくという「協同で思考する」場を前提としたものとなっていることにも注目したい。

「確かめよう」を活用することにより、対話を通して学ぶ、「他者の声」にふれながら、よりよい「意見文」を記述しようとする子どもたちの姿を見ることができるようにも近い。

「中学生の国語」を使った授業

「確かめよう」で、何を学んだのかを確かめる。

## 「空中ブランコ乗りのキキ」で学んだ後に

● 京都教育大学 寺田守

### 教材「確かめよう」の意義

「空中ブランコ乗りのキキ」の授業で、学習者がいちばん熱心に考える問いといえば、なんとといっても、キキの性別についてだろう。

「先生、キキは男の子なの？ 女の子なの？」  
男だ女だと口々に発言し始める学習者に、教師が手がかりを見つめるよう促すと、どの学習者も答えを探し求めて、本文を読み返し始める。

「キキって名前が女の子みたい。」「男の子の名前だったとしても変ではないよね。」  
「世界で一人しかできない三回宙返りをしているくらいの運動能力なのだから、キキは男だよ。」「運動能力が優れているからといって男性とは限らないんじゃないかな。」

「自分のことを『私』と言っているから女だよ。」「『私』という男性もいるよね。」  
読者それぞれが持ち込むイメージ、直感、

思い込みを裏付ける根拠を探そうと、学習者たちはときにむきになって主張を繰り返す。決め手がなかなか見つからず、何人かが興味を失いかけてくる頃、一人の学習者が顔を輝かせて発言し始める。

「みんな、一生懸命、練習をしていますもの。』と言ってる。『いますもの』って女性しか使わない言葉遣いだよね？」

「なるほど」、「でも」、「あー」といった声が口々にこぼれ、やがてキキは女性と考えるのが最も妥当だと合意が形成される。

この一つの授業場面から、私たちは、最も打たれ強い答えを最も優れているとみなす暗黙の規則を共有している、という知見を引き出すことができるだろう。打たれ強い答えとは、例えば「いますもの」という言葉遣いは女性が用いる、といった打たれ強い根拠をもっている。だから学習者は答えを支える根拠を本文中に見つけようとする。

教師は学習者にキキの性別を暗記することを望んでいるわけではない。こうした課題に取り組むことで、学習者が他者に納得してもらえない答えを導く所作を身につけることを狙っているはずだ。今回の新しい教科書の教材「確かめよう」は、そうした所作を見取り図として提示することで、国語学習の意味を明確にしようと試みたところに特色がある。

### 場面の展開を読み取るには

それでは、「空中ブランコ乗りのキキ」で学んだ後に、どのように「場面の展開を読み取るには」を活用すればよいのだろうか。「場面の展開を読み取るには」では、「竜」（今江祥智）を素材として、「やっと心に決めた」「決心した」「とうとう心を決め」といった表現に着目し、三太郎の心情の変化を読み取る練習の場が用意されている。鼻先を出そうと「やっと心に決めた」三太郎は、それでもそろそろ



寺田守 京都教育大学准教授。専門は読むことの学習指導研究（文学）。現在は小グループの読書を活用した学習活動の開発に取り組んでいる。

そろそろと突き出すだけだった。やがて思い切つてとび出してやろうと「決心し」「とうとう心を決め」ものすごい勢いでとび出していく。ここで注目したいのは、「やっ」と「とうとう」といったモダリティ（法性）を表す言葉である。話者の判断や心的態度を表す言葉を削除してみても、その言葉があるのとならぬのでどのような変化があるかを考えることで、一文の意味は明確になる。例えば「やっ

二年確かめよう」場面の展開を読み取るには

20 ●場面の展開を読み取るには

田中君は「やっ」といって、とうとうと、ものすごい勢いでとび出した。そのとき、彼は、

「決心し」「とうとう」などのモダリティ（法性）を表す言葉は、話者の判断や心的態度を表す言葉である。この言葉を削除してみても、その言葉があるのとならぬので、どのような変化があるかを考えることで、一文の意味は明確になる。



「やっ」といって、二年確かめよう。この「やっ」という言葉は、話者の判断や心的態度を表す言葉である。

「やっ」といって、二年確かめよう。この「やっ」という言葉は、話者の判断や心的態度を表す言葉である。

「やっ」といって、二年確かめよう。この「やっ」という言葉は、話者の判断や心的態度を表す言葉である。

「やっ」といって、二年確かめよう。この「やっ」という言葉は、話者の判断や心的態度を表す言葉である。

と」があることで、それまでにあれこれと考え、悩んだ末にどうにか決心したことがわかるし、「とうとう」があることで、それが最後の決心であり引き返せない判断であることがわかる。

「空中ブランコ乗りのキキ」ではどうだろうか。例えば「なんて」という助詞の使い方に特徴がある。団長やキキの用いる「三回宙返りなんて」「四回宙返りなんて」には、とてもできやしないといった意外の意味があるが、ピエロの用いる「人気なんて」にはたいしたことないという軽視の意味がある。他にも「いつも」「いつか」「しか」「きつと」「くらい」「もう」「やっぱり」などの副詞や助詞から、登場人物の心情を把握できる。

キキが決心する部分に次のような段落がある。

キキは黙ってほんやりと海の方を見ました。しかしまもなく振り返ってほんのちよつとほえんでみせると、そのままゆつくり歩き始めました。

この段落の言葉を削除し、例えば次のように書かれていたとしても、私たちはあるいは同じ意味だと理解するかもしれない。

キキは黙って（ ）海の方を見ました。しかし（ ）振り返って（ ）ほええ（む）と、（ ）歩き始めました。

もし同じ意味だと感じるならば、私たちがそれらの表現を読み飛ばしているということである。「ほんやりと」海を見たのだから、視線が海に向かっているだけで、心ここにあらざという状態で考え事をしたことがわかる。「まもなく」とあるから、決心までの時間はそれほど長い時間ではなく、数十秒程度だろう。「ほんのちよつと」ほええんで「みせ」ただけから、おばあさんに礼儀として愛想をふつただけで楽しかったりうれしかったりしたわけではない。「そのまま」歩き始めたのだから、反応を待たずにはほええみながら動き出した。「ゆつくり」なので、慌てたり動揺したりしてないキキの覚悟がわかる。

私たち読者は、一文の七割程度理解できれば読めたと考える。しかし、読み飛ばしてしまいがちな三割程の言葉の意味こそが、読解において重要な手がかりとなる。「空中ブランコ乗りのキキ」の学習で、このような読み方を意識して指導されていれば、学習者は教材「確かめよう」で復習を兼ねた練習を行うことができる。

## 負担を軽減しながら豊かな学びを展開する

●『中学生の国語』編集委員会

資料編の「言語文化編」は、本編の学習を  
 広げ、深める補助教材である。教科書と問題  
 集、ワークシートだけでは、必ずしも授業は  
 成立せず、教材に合わせ、写真やスライド、書  
 籍などを教師各々が用意しているのが実状で  
 はなからうか。教材にどのような味つけをす  
 るのかは、教える側の腕の見せどころである  
 と同時に、毎時間の授業準備の負担ともなる。  
 「言語文化編」は、多くの写真で構成した  
 「言葉の図鑑」、各学年約十本の作品を収録し  
 た「読書の森へ」、本の冒頭を掲載した「言葉  
 を旅する」など、これまで教師が穴埋めをし  
 ていたであろう教材で構成されている。

### 豊富な写真で理解を広げ深める

例えば、一年生の本編には、寄席文字や相  
 撲文字、明朝体やゴシック体を学び「書体」  
 への意識を促す教材がある。「他に、どんな字  
 体があるでしょうか。」と問いかけ、「言葉の

図鑑」を開くと、「身近な文字のいろいろ」が  
 載っている。また、二年生の「平家物語」で  
 は、日本地図で義経の経路や合戦の地を確認  
 し、作品への理解を深めることができる。

### より読書を身近にする

これまで、「授業時間が足りない」という意  
 見が聞かれる一方で、「自分で教材を探してい  
 るが、なかなか時間がない。」「読むこと」の  
 教材が、もっとほしい。」という声も強かつ  
 た。平成24年度版では、本編の『読むこと』

教材の充実を図るとともに、別冊・資料編の  
 「読書の森へ」に、近代文学から、子どもが好  
 んで読んでいる現代の作家まで、幅広い書き  
 手・内容の作品を収めた。(↓P20-23)授業中  
 の補助教材としてはもちろん、朝の読書にも  
 活用できる。「言葉を旅する」には、図書紹介  
 のページで取りあげた作品の一部の、冒頭を  
 掲載した。これは、「図書紹介が充実していた

としても、本を読むことがあまり好きではな  
 い生徒が、実際に、図書館や本屋で本を探し、  
 手にとることは容易ではないだろう。もとも  
 と本が好きな生徒だけでなく、全ての生徒に  
 本に親しんでほしい。」という願いから生まれ  
 た教材である。例えば三年生の「言葉を旅す  
 る」には、『博士の愛した数式』小川洋子、『深  
 夜特急』沢木耕太郎、『生物が生物である理  
 由』爆笑問題+福岡伸一などを掲載した。

### 教室に応じた豊かな学び

上記の「言語文化編」は、別冊・資料編に  
 収め、必修の教材との明確な差別化を図った。  
 そのため、必要な部分のみを使用することが  
 可能であり、教室の実状に応じた学びを展開  
 できる。「言語文化編」を使用することで、教  
 える側の負担が軽減され、子どもたちの豊か  
 な学び、言葉の広がりや深まりが保障される  
 ことを期待している。



### どちらも使える 横書きと 縦書き

日本語は、世界でも数少ない縦方向にも横方向にも書ける言語です。

**ダイナマイト発明者の遺言で朗読**  
「ダイナマイト」は、1846年にスウェーデンの化学者アルフレッド・ノーベルが発明した。この発明は、人類の歴史に大きな影響を与えた。ノーベルは、自分の遺産の大部分を科学、文学、平和、音楽、美術の分野に寄付し、ノーベル賞の創設に尽力した。

**私たちの郷土 北海道**  
北海道は、日本の最北に位置する島国。豊かな自然と独特の文化を誇る。札幌は、北海道の中心都市であり、冬の雪まつりや夏祭りが有名である。

عز نرسش من طرف قی  
عج نرسش من طرف قی

アラビア文字など、右から左へ書く文字もあります。

### 手書きと活字

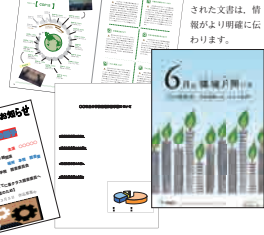
手書きの文字と活字とは、どのような違いがあるのでしょうか。



手書きの文字は気持ちまで伝わってきそうだね。



活字を使って作成された文書は、情報がより明確に伝わります。



### 言葉の 文学のいろいろ ゆび

## 身近な文字のいろいろ

身のまわりを気をつけて見てみると、文字はさまざまな姿をもっているのがわかります。



一年 資料編「身近な文字のいろいろ」

### 言葉の 文学のいろいろ ゆび

## 平家物語紀行

平家一門の栄枯盛衰を描いた物語で、永久不変のものはないとする無常観が全編を貫いています。



**打出の浜**  
源氏軍大津市、木曾氏村はここで、今年、戦平らと最後の戦いによって出た。



**一の谷**  
長門県厚狭市。一の谷の戦いで敗れた平家は、厚狭へ退却する数にになりました。



**壇の浦**  
山口県厚狭市。源平最後の戦いで壇の浦の戦いが行われた場所です。



**屋島**  
香川県高松市。暴風雨の中、源義経が少数の軍で合戦をかくす。平家宗義が討たれました。



**倶利伽羅峠**  
石川県富山県。源平の戦い、源義経が平家の大軍を斬りました。



**寂光院**  
京都府大津市にある寺院。清盛の娘の建礼門院が平家滅亡後に隠棲した場所です。



**石橋山**  
神奈川県小田原市。源義経が頼朝と合戦した場所です。

二年 資料編「平家物語紀行」

「中学生の国語」を使った授業

別冊・資料編の「情報活用編」で、情報活用の力をつける。

# 教材「『企画会議』を開こう」を活用した効果的な話し合いの授業づくり

●群馬大学 中村敦雄

## 話し合いの授業づくりのポイント

「話すこと・聞くこと」の学習にとって、話し合いは重要な到達点に相当する。学習者にとっては、「話すこと・聞くこと」の能力を、限られた時間のなかでフルにはたらかせる機会となるからである。また、実社会でも生きてはたらくという観点からすると、話し合いは、立ち合う可能性が高い言語活動でもある。それだけに、生きてはたらくコミュニケーション能力を育むため、クラス全員参加を前提として取り組みたい。

話し合いの授業づくりのポイントは、二つある。

一つは、どういうゴールを目指しているのか、教師だけでなく、学習者全員が明確に把握してから話し合いを始めることである。というのも、とすれば教師の注意は話し合いが成立することに向けられる。学習者が活発

に交流していると、そこで満足してしまいがちである。しかし、学習者の声を聞いてみると、「ああおもしろかった。でも、結局どうなったの：？」といった状態になりかねない。注意しておきたいことは、何のための話し合いなのか——つまり、目的である。話し合いが終わった時に、何がどう話し合われている、あるいは、どういった結論が導かれていることを目指しているのかを事前に共有できるようにしておきたい。

もう一つは、ゴールに向かって何をどうするのか、具体的な手順を示すことである。たとえば、教師は「考えなさい」という指示を無意識のうちによく口にする。だが、学習者に教師の期待は伝わっているのであろうか。もしかしたら、「考えなさい」と指示するよりも、「○と△を比較して、自分の意見をまとめなさい」と指示したほうが適切なのかもしれない。こうした配慮は国語が苦手な学習者は

ど手厚くしておきたい。

## 充実した「企画会議」を開くための方策

中学三年生の教材「『企画会議』を開こう」に即して、上述の点を保障する手立てについて述べたい。この教材では、地域活性化プロジェクトとしてアイデアを交流し合う機会が設定されている。

「企画会議」のゴールは、クラスで話し合っただけで決めた企画を全校に発信することである。その過程では、個人、グループで企画を出し、それをクラスの企画会議で提案する。提案、そして発信するときに、どんなことをどんな程度まで明らかにしておく必要があるのか、それを知っておくことを前提としたい。その際に参考になるのが、教材に例示された「企画発表の例」である。事前にこの例示を読ませ、ここには項目として何があげられているか整理させておく。さらに、提案、発信する



なかむら あつお／群馬大学教授。全国大学国語教育学会理事。PISA調査国内専門委員(2000-2009)。著書として、『言葉の力を育てるレポートとプレゼンテーション』(共著 明治図書, 2009)等。論文多数。

際に活用する視覚資料としては、別冊・資料編『学びを広げる』の「情報活用編」に掲載された教材「効果的なメッセージ」も合わせて活用したい。同教材では、映像と言語を活用したポスターによる発信の例が掲載されている。こういった具体的なゴールを見せることで、「企画会議」で何がどう話し合われ、どういった結論が導かれ、それがどういうポスターとしてまとめられていなければならないのかを把握することが可能になるのである。

私たちの考えた地域の活性化の企画は、公民館の玄関に、美術部や書道部の作品を展示することです。文化祭での展示は年に一度ですし、校内で行われるので、地域のかたが多く来られているとはいえませんが、公民館のかたにお伺いしたところ、玄関ホールが展示などのために活用されることは少なく、来館者に寂しい印象を与えているのが気がかりだとおっしゃっていました。公民館では絵画教室や書道サークルのかたがたも活動されています。将来的には、そのようなかたがたも交流ができればいいと思っています。作品の選定や運搬、展示スペースの確保など、実現のためには考えなくてはならない問題もありますが、日頃取り組んでいる部活動の成果で地域の公民館が活気づくのは、とてもよいことではないかと考えました。

三年 本編「企画会議」を開こう」企画発表の例

具体的な手順に関しては、グループワークやクラスとしてのアイデアをきちんと組み立てることが鍵となる。その過程については、同じく「情報活用編」の教材である「発想のメモ」を活用することができる。同教材では、アイデアを出すためのブレインストーミングの手法が取りあげられている。クラス全員が、まずは地域活性化にふさわしいアイデアを考えるうえで、「お互いの意見を批判せず、自由にアイデアを出し合う」ことを生かしたブレ

**効果的なメッセージ**

言葉のリズムや響きなどを活用して、より効果的にメッセージを伝えましょう。

- リズムや響きを生かす**
  - キャッチコピー
- 言葉を工夫する**
  - 熟語
- 絵で伝える**
  - ビクトグラム
- 言葉と写真などを組み合わせる**
  - 写真

三年 資料編「効果的なメッセージ」

インストーミングの手法を採用することがふさわしい。教材にあるように、一枚の台紙に思いついたことを、それぞれ関連づけながら書き込んでいくのである。こうした過程をふまえて全校に向けて自分たちのアイデアを発信する経験は、学校という社会での生きた言語活動を経験するうえで貴重なものとなるだろう。以上のポイントを押さえた授業開発が、話し合いの学習を充実させる鍵となるのである。

**発想のメモ**

思い浮かべたことや考えたことなどをすべて活用できるように、さまざまな方法で書き留めておきましょう。

- 自由にアイデアを出す**
  - ブレインストーミング
- 思考と思考をつなげる**
  - 図式化
- 目的にそって整理する**
  - グループ化
  - マインドマップ
  - ダイヤモンドラング

三年 資料編「発想のメモ」

「中学生の国語」を使った授業

別冊・資料編の「事典編」で、年間を通して学習習慣をつける。

## 「事典編」自体を学習材に

### —年間課題のすすめ

●早稲田大学 町田守弘

#### 国語科の年間課題

国語科の学びは、授業時間内のみにとどまるものではない。日常生活の中で用いる言葉を学ぶという教科の特性から、毎日少しずつ学ぶというシステムがふさわしい。そのような観点からすると、学習者による授業時間外の自主的な学びの充実を図る必要がある。

別冊・資料編『学びを広げる』の「事典編」は、『中学生の国語』と並行して使用するという形態が一般的なものである。例えば『中学生の国語』で「対話」という用語を学んだとき、「学習用語事典」を参照して、その用語の意味を確認すると同時に、「対話」との比較をしながら「独話」や「会話」という用語の意味を理解するという方法で活用することができる。その点を確認したうえで、あえて提案したいのは、「事典編」それ自体を学習材として活用するという方向である。

わたくし自身、中学校の授業を担当したときには、学習者に「年間課題」を課していた。日頃から言葉に対する学習者の関心と問題意識を高めるといふ目標のもとで、毎日少しずつでも言葉の学習と関わる時間を確保しておきたいという思いから、年間課題を課することにした。

その際に重要な点が二つある。第一は、国語科の授業時間のみではなく、学習者の日常生活において常に意識的に取り組めるように配慮する点である。そして第二には、国語科の授業の中でスムーズに学習が展開できるように、すなわち学習の習慣を身につけられるように配慮する点があげられる。授業の予習・復習とは別に、一年間を通して学習者が自主的に学ぶための「年間課題」を提案したい。授業開きの際にその趣旨と方法をよく説明して、学習者の理解を得てから実施するように配慮する。



まちだ もりひろ／早稲田大学教授。小・中・高の教育現場に勤務した経験を生かして、国語科の教材開発と授業開発に関する研究を進めている。著書に『国語科授業構想の展開』（三省堂）などがある。

#### 8 独話・対話・会話

いずれも、場を共有する対面的コミュニケーションである。その中で、話し手と聞き手の関係によって次の三つに分類される。

**独話**——一人の話し手が多くの聞き手に向かって話す、ひとまとまりの話のこと。最初から最後まで、話し手は話し手、聞き手は聞き手で、立場は変わらない。スピーチ・弁論・発表・報告などが、これにあたる。

**対話**——話し手と聞き手が立場を交代しながらする話し合いのこと。話し手と聞き手の間に、知識や情報量に違いが大きいと、対話は成立しにくい。

**会話**——二人以上の人が立場を交代しながらする話し合いのこと。話し手は自然に交代するのを原則とする。会話では、話し手の話をしっかり聞き、その内容を受けて話すことが大切である。討議と形式は似ているが、目的や話題が異なる。討議は決まった話題についての話し合いだが、会話は話し合いの中で話題も変化する。

この年間課題用の学習材として、「事典編」の内容が活用できる。「事典編」には、「学習用語」「文法」「漢字」「読書」に関する内容が収められている。これらの全てを年間課題に活用することが可能だが、ここでは具体例として「読書」を取り上げて、実際の学びの展開についての提案をする。

## 読書ラリー

「読書」に関する年間課題として、「読書ラリー」と称する課題を紹介したい。これは「ブックリスト」を活用した課題である。

読書指導に関しては、「朝の読書」および「ブックトーク」、「読書へのアニメーション」、「ブッククラブ」など、様々な試みがある。そこで国語科の年間課題の中に、読書に関するものを含めるように工夫してみたい。

「読書ラリー」は、「ブックリスト」にある本にそれぞれ点数を与えるところから始まる。点数は、その本の難易度や長さなど、総合的に判断して教師が付けるようにする。点数はあまり細分化せず、十点から三十点の間にするのが妥当である。

学習者はブックリストから自由に本を選んで読み、「読書の記録」と称する用紙にその成果をまとめる。「読書の記録」には次のような

○ここには、この教科書の「小さな図書館」と『中学生の国語』の「私の本棚」で取りあげた本を、五十音順に並べました。  
○あなたの読書生活を広げていく際の参考にしましょう。

◎=「私の本棚」で取りあげた本

<b>あ</b>		ことばあそびうた……………21
✓ あ・い・た・く・て……………21	✓ ことわざ絵本……………21	✓ 今昔ものがたり……………◎29
✓ 明日につづくリズム……………◎155		
✓ あらしのよるに……………◎79		
✓ ありがとう贈答犬タロー……………◎119		
✓ ありがとう 地雷ではなく花をください……………23		
✓ アルバートおじさんと 恐怖のブラックホール……………24		
✓ アンジュール……………22		
✓ イヌのいいぶん ネコのいいわけ……………23		
✓ いのちのはじまり……………20・29		
✓ いのちをはぐくむ農と食……………23		
✓ エーディ、ここなら安全よ……………20		
✓ エネルギーってなんだ？……………24		
✓ おーい ぼほんた……………21		
✓ おもしろ古典教室……………◎169		
	✓ 西遊記……………25	
	✓ 里山のおくりもの……………◎57	
	✓ 里山百年図鑑……………◎57	
	✓ 詩のこころを読む……………◎99	
	✓ 詩の玉手箱……………◎99	
	✓ 「詩のボクシング」って何だい？……………◎99	
	✓ 十二番目の天使……………◎155	
	✓ 手話でこんにちは……………21	
	✓ 白狐魔記 源平の風……………25	
	✓ しらんぷり……………22	
	✓ 世界昆虫記……………24	
	<b>た</b>	
	✓ 多賀城 焼けた瓦の謎……………23	
	✓ 竹取物語……………◎29・26	
	✓ 築地魚河岸三代目……………◎193	
	✓ 時の旅人……………25	
	✓ 函南の翼……………25	
	✓ 飛ぶ教室……………23	
	<b>な</b>	
	✓ 西の魔女が死んだ……………22・27	
	✓ 2000年間で最大の発明は何か……………24	
	✓ ニッポンの名前 和の暮らしモノ図鑑……………◎22	
	✓ 脳を育て、夢をかなえる……………24	
	✓ ノーベル賞受賞者にさく 子どもなぜ？ なに？……………24	
	<b>は</b>	
	✓ 葉っぱのフレディ……………20	

143 ブックリスト

資料編 一年「ブックリスト」

項目を入れるようにする。

- ① 書名・著者名・発行所・発行日
  - ② どんな人にお薦めか
  - ③ 本の紹介
  - ④ 面白さ・分かりやすさ・役に立つ、の各ランキング
- 提出された「読書の記録」は教師が点検して、その内容に応じた点数を与える。その際の最高得点は、リストに示した点数とする。「読書の記録」の内容によっては、大きく減点される場合もある。

あらかじめ年間の得点のノルマを決めて、その点数を超えるだけの本を読むように指導し、獲得した得点は平常点として評価に取り入れる。ゲームの要素を多少なりとも取り入れた試みによって、読書生活を豊かにすると同時に、発想のストックを広げるといふ効果も期待できる。

本稿では一つの例として「読書」を取り上げて紹介したが、このように年間課題の学習材として「事典編」を活用し、学習者の言葉の力をしっかりと育成したい。

1年

NEW 水田のしくみを探る

岡崎稔 おかきみのる



水田には先人の知恵が詰まっていた。水田のしくみと、私たちの生活にもたらす恩恵とは何か。

NEW ユニバーサルな心を目指して

三宮麻由子 みやのみやまゆこ



視覚障害をもつ筆者の視点から、「全ての人が元気な心で暮らせる社会」の実現を考える。

この小さな地球の上で

手塚治虫 てづかおさむ



「人間って全くもってすばらしい生き物だ！」とつくづく思ったのは、南米ペルーのナスカ高原にある、例の有名な巨大地上絵を、まのあたりに見たときだった。

NEW 信頼をつなぐ

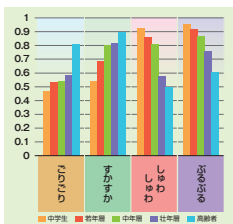
小関智弘 こせきとちひろ



身近な道具であるファスナーは、日本の高い技術力に支えられている。その技術力とは。

食感のオノマトペへ

早川文代 はやかわふみよ



日本語の豊富なオノマトペについて、数値やグラフを用いながら考える。

2年

壁に残された伝言

井上恭介 いのうえきょうすけ



広島で、被爆直後の人々によって書かれた伝言が、白黒反転した形で発見された。そのメカニズムとは――。

NEW 日本人はアリスの同類だった

高畑勲 たかはたあきら



日本でマンガやアニメが発達した理由とは何か。ヒントは十二世紀の絵巻物まで遡る。

読書の森へ

2年

卵の立つ話

武器なき「出陣」 千本松原が語り継ぐ

中谷宇吉郎

「話の地図」を相手に示そう

船戸政一  
池上彰

1年

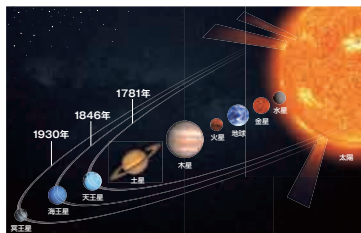
速い生活、だいじょうぶ？

玄関扉

数え方でみがく日本語

本川達雄  
渡辺武信  
飯田朝子

3年

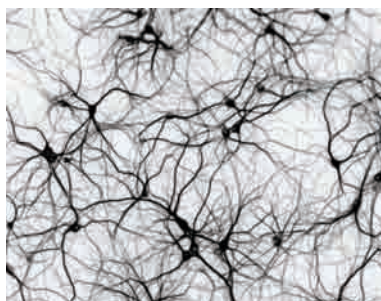


**NEW** け 冥王星が「準惑星」になったわ  
渡部潤一 わたなべじゆいち

歴史的な決断を迎えるその日まで、繰り返された議論とは。比べ読み学習を想定し、複数の新聞記事も同時掲載。



**NEW** 「文殊の知恵」の時代  
北川達夫 きたがわだつお  
情報があふれ、さまざまな国や地域の人と接する機会が多くなった現代社会。変化の時代を生きたる知恵を説く。



**NEW** 海馬  
池谷裕二 いけがやゆうじ  
糸井重里 いといししげさと

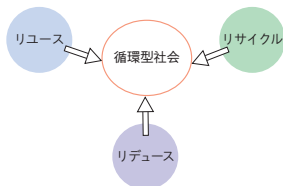
難しいテーマについて、説明の工夫と聞き手の役割を学ぶ。本文は対談形式。



言語を完全に置き換えることはできない。モンゴル人が「ありがとう」と言わない理由とは。

「ありがとう」と言わない重さ  
吳人恵 くれひとあみ

**NEW** 「循環型社会」とは何か



「持続可能な発展を目指す社会」を実現するために、いま何が必要か。

片谷教孝 かたたのりたか

**NEW** 日本語メガネのかけ替え  
アーサー・ピナード



英語を母国語とする筆者の、異なる言語を使って世界を眺めることの、驚きと喜びとは。

別冊 資料編

3年

春の数え方のくいちがい？  
あいさつは心のパスポート  
戦争と平和を思う  
ひとひらの笑顔  
日本語を見つめる

日高敏隆  
外山滋比古  
林京子  
オユンナ  
山口仲美

友愛——14歳の君へ

池田晶子

1年

NEW

夕焼け

工藤直子  
くどうなおこ

いるか

谷川俊太郎  
たにかわゆんたろう

雨ニモマケズ

宮沢賢治  
みやざわけんじ



空中ブランコ乗りのキキ

別役実  
べつやくみさる



「それほどまで考えてるんだったら、おまえさんに四回宙返りをやらせてあげよう。」  
おばあさんは、かたわらの小さなテントの中に入り、やがて、澄んだ青い水の入った小瓶を――。

タオル

NEW

重松清  
しげまつきよ



少年はタオルをねじって細くした――いつも祖父がそうしていたように。

トロツコ

芥川龍之介  
あかたかひさのすけ



「命さえ助かれば。」――良平はそう思いながら、滑ってもつまずいても走っていた。

2年

NEW

大阿蘇

わたしを束ねないで

新川和江  
しんかわかずえ

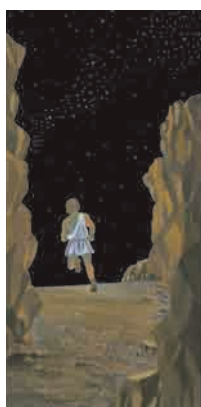
三好達治  
みよしたつじ



走れメロス

太宰治  
だざいせい

セリヌンティウスは、縄打たれた。メロスは、すぐに出発した。初夏、満天の星である。



読書の森へ

2年

幸福

夏を見上げて。  
凧になったお母さん  
狂言 柿山伏

安岡章太郎

あさのあつこ  
野坂昭如

1年

少年の日の思い出

注文の多い料理店  
森の地図  
アイスクャンデー売り  
初天神  
江戸の笑い 川柳


ヘルマンIIヘッセ

〔訳〕高橋健二  
宮沢賢治  
阿部夏丸  
立原えりか  
川端誠  
興津要



3年

**NEW**  
 初恋  
 うち 知ってんねん  
 島崎藤村  
 島田陽子




**猫**  
 トーベリヤンソン  
 「訳」渡部翠



「だって、私が愛しているのはマツペなんだもの。」  
 こうして、再び猫が取り換えられたのだった。

**NEW**  
 高瀬舟  
 森鷗外



喜助はその苦をみているに忍びなかった。苦から救ってやろうと思つて命を絶つた。それが罪であるうか。

小さな手袋  
 内海隆一郎



普通の五倍も時間がかかるという苦しい思いをして、ようやく編み上げた手袋だった――。

**NEW**  
 蒼いみち  
 小澤征良



草野冬彦は私が六歳のときからの幼なじみだ。ガサツで、乱暴者でガキ大将だったフユちゃん。

別冊 資料編

3年

故郷  
 魯迅  
 「訳」竹内好  
 夏目漱石  
 石田衣良  
 江國香織  
 オールヘンリー  
 「訳」金原瑞人  
 鉛筆削り  
 村上春樹  
 小川洋子  
 吉野弘  
 真壁仁  
 虹の足  
 峠  
 吾輩は猫である  
 終わりのない散歩  
 デューク  
 二十年後  
 故郷

ことばで自己を見つめ、  
 自他を尊重するところを育て、  
 いのちについて考える



教育基本法や中教審答申に伝統文化の尊重が明記され、従前に増した各学校段階、各教科での指導が求められることになりました。ここでは、古典から始める国語の授業を提案します。

# 次の学習に向かう生徒を育てる古典

●筑波大学附属中学校 飯田和明

## 一 中三での古典学習

中学校に入って国語を学び始めて、三冊目の教科書を手にする生徒・学習者を指導することになる。まずは、生徒たちがどのような古典の学びをしてきたか、どのような力と気持ちをもってこの場に臨んでいるかを把握しながら、授業を作っていくことになる。

導入としては、中学校一・二年で習った教科書の文章を手元に置き、教材ごとの音読、内容の概略、時代背景の知識、自分のもった感想などを確認することが有効と思われる。古典学習として積み重ねてきた知識・理解、それをもとに感じたり考えたりしてきたことを振り返り、「ここまでではわかった。このことはできた。」という有能感を、ぜひ生徒それぞれに持たせたい。その上で、これから学ぶ学習内容と目標とを提示し、次なる古典の世界、未だ取り扱っていない時代、分野、レベルの

学習に向かって学んでいくことを、教師・生徒が共に認知できるよう工夫をして、中三の教室での授業を開いていきたいものである。

## 二 「古典の学習が変わる」とは

前項で示した導入の内容とその具体化は、教室の状況に対応して考えられるべきものだが、この段階で共通して不可欠なものは、前述した生徒の有能感に加えて、「なぜ今、古典の作品を読むのか」という古典学習の意味の理解である。前項で言う「古典の学びに対する気持ち」。それは学習者自身に任せておくだけでなく、指導者の側できちんと導いていくてはならない、授業を力強く推進させるための重要な認識であると考えられる。

「中学校の古典学習が変わる」といわれる。新しい学習指導要領で「伝統的な言語文化と国語の特質」が学習構成の中に位置づけを与えられた。その意味で「古典学習は変わる」といえる。では「変わる」とは何が変わるの



かずあき 飯田和明  
筑波大学附属中学校教諭。学歴は「自己」の中育な「他者」と心究。研究実践を行っている。

か。古典の作品自体は変わらない。それを読む時代が変わるのである。それを読む人が変わるのである。そのことよって、古典の読み方の変容も盛衰も生じる。そう考えるのが自然であろう。では、古典が重視されるという現代の日本の状況とはどのようなものなのか。そのことを考えなくては、現代に国語教師として教壇に立つ意味は、希薄になると言わざるをえない。こういったことを、時枝誠記の次の言説を参考にして考えてみたい。

「嘗ては、古代だけが理想であつて、現代は、墮落した時代と考へられてゐたが、今日ではその逆に、すべてを現代をもつて律しようとする。現代に合致しないものは、無価値なものとして考へたがる。しかし、古典の中に、今日では忘れ去られてしまつたやうな物の感じ方、考へ方といふものを見いだすことが出来たとするならば、それは新しい世界の発見である。」(時枝(1956)「国語教育における古典教材の意義について」東京大学国語国文学会編『国語と国文学』Vol.33 No.4 至文堂)

時枝は、古典を教育において取り上げる際、古典が持つ世界そのものの存在を大切にすべ

きこと、それを現代という異なる時代に読むことでその価値が生じることを述べている。

### 三 古典を読む意味を考える

時枝の言わんとするところをもう少し考えてみたい。『おくのほそ道』という作品がある。三百年も前に記された文章を、現代に生きる私（たち）が読む。そこには当然、現代に生きる私（たち）の読み方が生じ、現代という時代、現代という社会、現代に生きる自分、自分の周囲……といった諸々のことが、読みに反映される。それと同じように、三百年前の人（たち）には、その当時の「現代」があり、私（たち）と同じように当時という時代、当時という社会、当時に生きる自分……といったものが、そこに存在していたはずである。

その両者を合わせることが、現代に『おくのほそ道』を読むことである。ゆえに、当時のことを知る必要がある。使われる文字も違うし人々の生活も違う。生き方、考え方、社会も異なる。そこで知るのは、単なる知識・理解では終わらない。なぜなら、現代に生きる私（たち）が読む時には、現代という時代を反映せざるを得ないからである。このように、三十年後に生きる人たちもこの作品を読むであろう。そのときには、中学生である目

の前の生徒は、親になって中学生である子に『おくのほそ道』について話すかもしれない。そのときには今の自分と同じような読みがされるのだろうか。目の前の生徒は三十年前にはこの作品を読めなかったのであり、百年後に読むことはかなり難しいのである。今の時代に生きる私（たち）が読んでいること自体に価値があり、そこからしか作品は伝えられていかない。すなわち生徒・学習者は、古典の継承者、歴史を刻む参画者と言える。

中学校三年の生徒には、このような理解を与えたい。受け身の授業ではなく、自ら古典の中にある何かを探していける生徒に育てたい。現代から過去と未来を見据える大きな視野の中で、向後の国語学習を捉えさせたい。

### 四 古典学習を進める要素

前項で述べたような学習の意義を前提にするとすれば、次の点が古典の学習を進める重要な要素になる。①知識（知ること）、②想像（思い浮かべること）、③着想（つなげること）である。①知識によって発想できる世界が広がる。当時のものの考え方、感じ方の理屈も分かるようになっていく。豊富な知識を生徒に持たせたい。②想像とは、今日の前にないものを思い浮かべることである。関連する資

料や映像教材などを提示して、豊かな想像を喚起させたい。③着想とは、今に生きる私（たち）につながる読みを生む基点を伴うことである。どういう点に着目すると面白いことが考えられるか。生活的な面もあるうし、思索的な面もあるう。生命・環境といった視点や社会・組織・人間関係といった観点もあるう。『論語』から現代日本の在り方を考えるに当たって、どんな論点が出せるか」という学習課題も有効であろう。

同じ教室で現代の作品を学ぶ友達と自分の読み方に違いがある。それぞれの個性があるから。ならば、古典の時代に生きた人が書いた作品の理解が、そう簡単にすむはずはない。逆に、大きな隔たりがあるからこそ、現代と共通するものの発見が驚きとなり、そこに不思議なつながりが感じられるのだろう。古典学習の中で驚きや発見が生徒の中に生まれるとき、古典は学ばれる意義を大きく発揮し始める。知識として習得された内容が、着想から運用によって活用される中で定着するという場面も見られるようになる。「古典の学習は奥深く、まだ学び足りない。」そう思って学舎を後にし、次なる学習の段階に向かう生徒を育てる義務が中学にはある。そのために試みられるべき方法は、多くあるはずである。

## 第3回

# 常用漢字になりました。

平成22年11月30日、新しい常用漢字が内閣告示されました。追加された漢字の中から、互いに関係がある3字を取りあげ、成り立ちや変遷をご紹介します。

●早稲田大学 笹原宏之

## 「健康」に関する漢字



ささはら ひろゆき / 早稲田大学教授。博士(文学)。専門は日本語と漢字。文部科学省の常用漢字表改定の委員。編著に「当て字・当て読み漢字表現辞典」など。



『中学生の国語』では、意味や使用場面に応じてグループごとに漢字を学習します。

今回の常用漢字表の改定で、「鬱」という字が入りました。この字は、昔から読めるけど書けないという字の代表でした。中国では、いくらか簡単にした「鬱」などの俗字が生み出され、それを元に日本では、中世になると、「林四郎」と縦に書いて済ませるといふ人まで現れます。「そんなふうしか書けないような人は教養がない」といつてからかわれました。江戸時代には蘭学者が心の状態を表すために「鬱」をよく筆記しましたが、使っているうちに簡単化し「鬱」と略す人も現れました。二十九画もある漢字なので、昔から人々を悩ませてきた漢字だったので。

憂

【ゆううつ】

鬱

【かんせん】

# 汗腺

「リンパ腺」「涙腺」などというときの「腺」も、今回、常用漢字表に採用されました。この字は、実は日本製の漢字、つまり国字なのです。作った人は宇田川榛斎うたがわしんさいという蘭学者で、西洋から伝わった腺せん（キリール）という語を訳すための作です。当初は、ライバルたちからおかしな字だと非難され、たった二人で使っていたものでしたが、次第に弟子がその字を学び、本にも使われるようになっていき、一般化が進みました。明治になるころには、辞書にも掲載され、時代とともに人々が身近に見たり書いたりするようになっていきます。そうした状況を受けて、今回の常用漢字表に採用されました。

【やせる】

# 痩せる

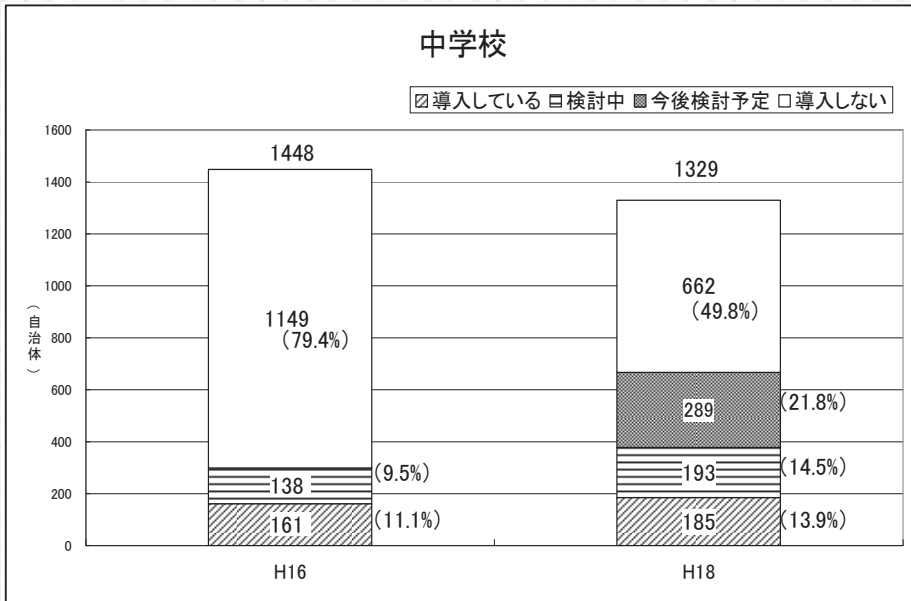
戦後間もない頃には、栄養失調で痩せた人が多かったそうですが、飽食の時代ともいわれる近年ではむしろダイエットで痩身が求められるブームが起こっているようです。

「瘦」という字体が古いのですが、広告などでの使用実態にも即して例外的に「瘦」という簡易な字体が常用漢字表に採用されました。「瘦」が当用漢字表で「瘦」の形で採用され、「挿」も同じく常用漢字表で「挿」の形で採用されていますので、児童・生徒にとっても一貫した理解につながりやすい字体だと思われれます。

『中学生の国語』には、各学年7～10本の漢字コラムを掲載しています。



## 学校選択制の実施状況



文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp/>) より

### ● 選択制導入の動向

選択制導入の実態を示す資料を文部科学省ホームページで検索したところ、同省が平成二〇年六月に公表した、実施状況調査結果に関連する上の表にたどりついた。平成十六年と平成十八年を比較すると、「導入しない」が減少し、「今後検討予定」の数字が大きくなっていることが認められる。

### ● まず基本理解

市区町村教育委員は、翌学年小、中学校等に入学する予定者に対して、入学期日の通知、市区町村に二校以上の学校が設置される場合の就学すべき学校の指定が義務づけられている。その取扱の事務の過程で保護者からの希望を聴取し、それを尊重して学校指定を行うしくみを学校選択制という。選択の形態としては自由選択、ブロックにおける選択、隣接区域での選択、特認校、特定地域での選択などがある。

平成八年七月に行政改革委員会規制緩和小委員会の論議の内容が公表され、平成九年一月に文部科学省から「通学区域制度の弾力的運用について（通知）」が出されて以来、学校選択の弾力化が課題となり現在にいたっている。親の教育権の保障、子どもの立場の考慮とともに、選択制導入によって、学校教育の活性化と改善を図ろうとするところにその趣旨がある。

### ● 検討課題とは

選択制導入によって、子どもが自分の個性にあった学校で学べる、保護者が学校への関心を深め協力の姿勢が強まる、学校が競い合うことで教育の質が向上する、といった導入のメリットに関する報告がある。その一方で、学校と地域との関係、入学者が減少した場合の学校運営、子どもの友人関係や安全確保などの問題が指摘されている。趣旨の把握から実態分析、選択制の形態の検討など、効果的な導入をどう捉えるかが課題になっている。

## ●『中学生の国語』編集委員

長谷川孝士 中冽正堯	兵庫教育大学名誉教授 兵庫教育大学名誉教授	篠田信司 白井達夫 高橋俊三 田中耕治 田中智生 俵万智 寺田守 長崎伸仁 中村敦雄 西岡加名恵 花田修一 アーサー=ピナード 日高辰人 前田智子 牧戸章 町田守弘 松友一雄 三浦修一 宮本浩治 村井万里子 村上呂里 吉田和夫 株式会社 三省堂	I・L・E・C言語教育文化研究所 横浜国立大学 前群馬大学 京都大学 岡山大学 歌人 京都教育大学 創価大学 群馬大学 京都大学 日本教育大学院大学 詩人 杉並区立泉南中学校 東京都三鷹市立南浦小学校 滋賀大学 早稲田大学 福井大学 横浜国立大学 武庫川女子大学 鳴門教育大学 琉球大学 新宿区立四谷中学校
尾木和英 高木展郎 三浦和尚	東京女子体育大学名誉教授 横浜国立大学 愛媛大学		
北川達夫 堀田龍也	日本教育大学院大学 玉川大学		
足立幸子 安部朋世 飯田和明 伊坂淳一 井関義久 糸井通浩 冲山吉和 河野順子 河野智文 岸本憲一良 吉川芳則 笹原宏之 佐藤佐敏	新潟大学 千葉大学 筑波大学附属中学校 千葉大学 桜美林大学名誉教授 京都教育大学名誉教授 玉川大学 熊本大学 福岡教育大学 山口大学 兵庫教育大学 早稲田大学 上越教育大学		

## ●『中学生の書写』編集委員

中冽正堯	兵庫教育大学名誉教授
小西憲一 小林比出代 谷口邦彦 新田直美 松本仁志 三浦和尚 株式会社三省堂	香川大学 長野県立松本深志高等学校 安田女子大学 安田学園安田小学校 広島大学 愛媛大学

# ことばの学び

平成24年度版  
『中学生の国語』教科書特集号Ⅱ

2011年6月1日発行  
編集・発行人 北口 克彦

- 発行所 株式会社 三省堂  
〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14  
TEL 03 (3230) 9427〔編集〕  
振替 東京 00160-5-54300  
三省堂印刷株式会社  
〒192-0032 東京都八王子市石川町2951-9
- 印刷所

